

○ 本校の概要

【学校規模】児童数:306名(8/31現在) 学級数:13学級 教員数:25名  
 【目指す学校像】○児童にとって、安心して自分を表現でき、目標をもってがんばる過程が認められ、自己肯定感が育まれる学校 ○保護者にとって、安心して通わせることができ、子供たちのために協力したいと思える学校 ○地域にとって、親しみと誇りを感じる存在で、学校の活動を応援・支援したいと思える学校 ○教職員にとって、改善に向けた取組の成果や学校組織の一員としての貢献を実感できる学校  
 【校内研究】○研究主題:自尊感情を高めるキャリア教育を目指して～基礎的・汎用的能力を伸ばす指導工夫～ ○研究概要:自尊感情を高めることで学習に向かう意欲を喚起できるであろうという仮説の下、体育、構成的エンカウンターを取り入れた授業研究を行う。分科会(低・中・高学年分科会)の横軸と手立て部(学級活動部、行事部、教科(体育)部)の縦軸で研究組織を構成する。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組今後の改善策	評価人数	学校関係者記入欄 コメント
プラン1 未来 社会 を 成 創 造 的 に 生 き る 子	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもに力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	目標やめあてをもって取り組んでいると回答した児童の割合。	4: 3: 2: 1:		A B C D	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3					
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	2					
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	2					
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	1					
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学が意欲を高め、確かな学力を定着させます。	各種学力調査等を基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	ワークテスト(国語・算数)の知識・技能において正解が80%以上の児童の割合。	4: 3: 2: 1:		A B C D	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	2					
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	1					
		校内研究主題「自尊感情を高めるキャリア教育を目指して～基礎的・汎用的能力を伸ばす指導工夫～」に基づき、キャリア教育の充実を図ることで自尊感情の向上をねらいとする。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:「おおむねできた」と80%以上が回答した。 2:「おおむねできた」と60%以上が回答した。 1:「おおむねできた」と60%未満であった。	4					
		小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4					
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	あいさつをしていると回答した児童の割合。	4: 3: 2: 1:		A B C D	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2					
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2					
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	1					
		たてわり班活動で、円滑な異年齢交流を通して、つながりを深め、よりよい人間関係を築くことを意図した働きかけを実施する。	4:全教員(全たてわり班)が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	1					
プラン4 体力 増 進 の 向 上 と 健 康 の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	なんぼーランに参加した児童の割合。	4: 3: 2: 1:		A B C D	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	2					
		なんぼーラン(早朝ジョギング)への参加を促す取組を実施する。	4:全教員(全学級)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	1					
		授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					
プラン5 魅力 あ る 教 育 環 境 つ く り	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	保護者による授業評価において「先生たちは子どもたちに分かりやすい授業をしていますか?」の項目で肯定的回答の割合。	4: 3: 2: 1:		A B C D	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2					
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	1					
		授業力向上研修及び若手研修を実施し、指導力向上を図る。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	1					
		教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4					
一 体 ラ ン な 6 つ て 学 と 校 も ・ 家 庭 め ・ 地 域 育 が	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:「おおむね」情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	保護者アンケート「学校は、教育活動を適切に伝えている。」「学校は保護者からの相談や要望に対して、適切に対応している。」の項目で肯定的回答の割合。	4: 3: 2: 1:		A B C D	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	2					

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。  
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。